

事業所名

グループホームアミーユ大福

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成18年12月19日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職生活指導員

資格・経験 身体障害者生活指導員、社会福祉主事、福祉士2級、介護支援専門員

B:現職理学療法士

資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師

B:現職高等学校非常勤講師

資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

簡評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○岡山市西部郊外、田園が見られる住宅地にあり、国道2号線バイパスが近くを通り、バス停も近くアクセスが良い。郵便局・商店も近隣にあり、都市生活が楽しめるロケーションである。

○運営法人は、具体的行動理念に裏打ちされた高質な基本理念を掲げ、その理念に基づいて全国的にグループホーム及び介護関連事業を展開している。当「アミーユ大福」は3ユニットのグループホームで、各ユニットに特色があり、管理者を中心に協調・連携がしっかり出来ている。

○採用後3ヶ月「導入研修」として、基礎介護技術・コミュニケーション技法・個別介護業務等を習得し、定期研修として法人が作成した介護マニュアル、「やっていますか?100」を一つひとつ徹底的に研修実践している。職員の接遇態度は丁寧で微笑みが溢れており、全職員が介護の基礎をしっかりと身に付けている。

○運営法人がアクティビティ・サービスの一環として、入居者・家族を対象にした旅行企画、「わくわく家族ツアーズ」を実施しており、「わくわく」するような体験を通して、生きがいで喜び、希望と楽しみのある生活実現を支援している。また、これらアクティビティを介して、家族との相互理解・連携を深めるようにしている。

○医療期間と緊密な連携があり、緊急時のバックアップ体制は24時間保障されており、入居者は安心してホーム生活が出来る。

○「普通の生活の回復を目指す」をホームの生活理念とし、入居者はお酒やたばこを自由に楽しむことができ、夜間も豊かで会話も多く、落ち着いた共同生活を送っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

質の高いサービス提供に力を注ぎ、その為の努力・研究を惜しまない姿勢は印象的である。改善すべきとして指摘する内容は無いが、提案として、

○管理者は地域交流の促進及びホーム機能の地域還元の一環として、必要に応じて、地域活動をより積極的に行えば、近隣の理解が進み、運営推進会議も活性化し、地域での福祉活動の拠点となるものと期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	○認知症が起る前の普通の生活に戻れることを目指しており、海外旅行等「今は難しいが、どうすれば行けるか」「今よりホーム生活が良くなるにはどうしたらよいか」を常に考えるようにしている。		
	○入居者が、「認知症・高齢者だからこうだ」という固定観念を持たないように、適切な理解を生み出す代弁者となり、高齢者の価値を高める目標・理念に向い、入居者に深い尊敬の念を持って接するように努力している。		
	○同じグループに「介護システム研究所」を設け、将来に向けて介護理念・介護目標を研究開発しており、当グループホームもそのノウハウを取り入れ、入居者の満足度を高めることを全てに優先するサービスの実現に向けて取り組んでいる。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるよう増づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	○家族との橋渡し役となり、入居者が家庭にいるのと同じように心安らかに過ごせるよう、家族との繋がりを重要視し、コミュニケーションを大切にしている。		
	○入居者のペースを尊重し、PSAI(個人尊重のケア)・オーダーメイドケアを実施し、入居者が自分のサイクルで落ち着いて生活できるように取り組んでおり、お酒もたばこも自由である。		
	○入居者が孤独を感じないように、職員は常に微笑みかけ寄り添うように努力している。また、犬と猫を飼っており、動物との触れ合いは、自然にアニマルセラピーと同様な効果が生まれている。		
	○ホーム内の温度・湿度・換気には特に気を配り、快適で衛生的な住環境を保ち、共用空間のどこでも寛げる取り組みがなされている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	○スタッフ全員が、入居者個々の適正・生活歴・能力を詳しく把握し、本人の意思・出来ることを尊重している。また、作業・リハビリ等の日常生活及び趣味活動が自主的に行われるように配慮している。		
	○一方的な介護ではなく、入居者からは悩み物を教えてもらう等、お互いに支えあう双方向性での共同生活を目指し、認知症緩和に繋がる入居者の自発性・積極性を引き出すように取り組んでいる。		
	○個人のデータは、ファイル化して事務室の戸棚に保管され、きちんと管理されている。シュレッターを活用し、不要の個人情報外部に漏れ出さないように留意している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	○職員は、採用後3ヶ月間「導入研修」として、基礎介護技術・コミュニケーション技法・個別介護業務等を習得している。また、定期的に勉強会を開き、支援技術・認知症介護サービスの内容向上・専門化に向けて取り組んでおり、介護サービスの質の向上に常に精励している。		
	○ご意見・ご要望カードを設置し、直接苦情を受け取り、問題発生の伏線として捉え、その苦情・要望を検討してケアサービスの向上に努力している。また、入居者・家族からの苦情・提案等は、フリーダイヤルで本部に直接通じるシステムもある。		
	○事故やヒヤリハットは事故報告書に記録し、それらの発生原因・因果関係を検討して職員全員で共有し、トラブル発生の未然防止に繋げている。		